

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-500	15-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Association Between Alcohol Consumption and the Risk of Barrett's Esophagus: A Meta-Analysis of Observational Studies. 飲酒とバレット食道：観察研究のメタアナリシス		
執筆者		
Xu Q, Guo W, Shi X, Zhang W, Zhang T, Wu C, Lu J, Wang R, Zhao Y, Ma X, He J.		
掲載誌		
Medicine (Baltimore). 2015 Aug;94(32):e1244. doi: 10.1097/MD.0000000000001244.		
キーワード		PMID
飲酒、バレット食道、観察研究、メタアナリシス		26266354
要 旨		
<p>目的： 飲酒とバレット食道の関連を明らかにするためにメタアナリシスを実施した。</p> <p>方法： 2015年2月にPubMed, Web of Science, Embaseをもちいて、飲酒とバレット食道の関連を検討した研究を検索した。固定効果メタアナリシスをおこない、飲酒とバレット食道との関連を検討した。</p> <p>結果： 文献検索の結果、20の観察研究（全対象者45181名、バレット食道4432名）を認めた。これらの観察研究を統合したが、飲酒とバレット食道との間に明らかな関連を認めなかった（相対危険1.10、95%信頼区間0.96-1.27、I²48.60%）。層別解析では、男性およびアジア人において、飲酒はバレット食道のリスク増加と関連していた（相対危険1.35、95%信頼区間1.13-1.61、I²0.00%および相対危険1.60、95%信頼区間1.03-2.49、I²60.60%）。また、リキュール類がバレット食道のリスク増加と関連していた（相対危険1.16、95%信頼区間1.02-1.32、I²0.00%）。一般住民を対照とした検討では、飲酒とバレット食道との間に逆相関を認めた（相対危険0.84、95%信頼区間0.72-0.98、I²0.00%）。</p> <p>結論： 飲酒とバレット食道との間に明らかな関連を認めなかったが、男性およびアジア人において、またリキュール類がバレット食道のリスク増加と関連していた。一般住民を対照とした検討では、飲酒とバレット食道との間に逆相関を認めた。</p>		